

平成 28 年度

事業報告書

社会福祉法人	やまなみ会
特別養護老人ホーム	なでしこの里
ショートステイ	なでしこの里
なでしこデイサービスセンター	
有料老人ホーム	四季の杜

## 1 はじめに

なでしこの里は、施設理念である「共に支え、共に生きる」に基づき「利用者本位、自立（自律）支援、利用者一人ひとりのニーズを把握し、その人らしく穏やかに暮らせるための支援を提供する」を目的とし福祉サービス提供に取り組んでまいりました。また、産山村地域包括ケアシステムの中での介護保険事業サービス提供機関として積極的に取り組んでおります。

年度当初に発生した地震では、産山村においても家屋の崩壊や道路の損壊など大きな災害となりました。当施設においても、ご利用者・職員への人的な被害はなかったもののスプリンクラー設備や一部建屋が被災しました。地震直後から地域の高齢者受け入れ要請が殺到する中に、非常食・寝具等の不足や道路状況により定時出勤できない職員も多く大変厳しい環境での対応となりましたが、職員一丸となり取り組んだ事で、地域の方々へ安全・安心な避難場所、生活の場所として地域の多くの方にご利用いただき、安心・安全に寄与することができることを地域の方に認識してもらう機会ともなりました。当施設が地域で果たす役割の重要性を再認識いたしました。災害時の緊急避難所として今後さらなる充実を図り地域に信頼される施設づくりに取り組んでまいります。

28年度事業報告は以下のとおりです。

## 2 各部署事業実績

### 1) 地域包括ケア事業

#### ① 村民及び関係機関との連携

- ・村内実態把握事業 3ヶ月に1回独居高齢者、高齢者世帯等の事態把握を地域ケア会議で事例提供するとともに、包括支援センターへ報告連絡をおこないました。

H28年度	独居	高齢者世帯	その他	計
6月	10	8	7	25
9月	9	7	7	23
12月	9	4	11	24
3月	5	2	5	12

(人)

地震で罹災されていて仮設住宅に引っ越されたりと所在の把握に手間取りました。地震や環境の変化で健康状態に変化はないか、気持ちが落ち込んだりしていないかなどに重点を置き実態把握に努めました。車中泊など負担の多い生活をされてADLが低下している方があり心配しましたが、次第に元気を取り戻されていき地震による影響も一時的で済む方がほとんどでした。平成28年度の実態把握で強く感じたことは、独居や高齢者世帯はもちろんですが、同居世帯で暮らす高

齢者にも多くの問題を抱えている方も多く、家族に介護保険制度が周知できていないことがわかり、困った時の相談場所や介護サービスの周知活動の必要性を強く感じ地域ケア会議でも報告いたしました。

・地域運営推進会議の開催 2ヶ月に1回

委員は行政、地域包括支援センター、民生委員、家族会の会長・副会長、居宅介護事業所、なでしこの里施設長、介護主任、デイサービス主任、ケアコーディネーターで構成し開催。毎月の各施設の利用状況報告と共に運営についての意見交換を行い、行政や家族の会をはじめとして多くの貴重な意見を頂き、より良い施設運営に努める場となりました。会議の内容は広報にも掲載し村民にも公表しています。

## 2) 看護部事業実績

### 1 利用者の健康管理について

- ① 年2回(8月・3月)の検診は昨年に引き続き血液検査、尿検査を施設の看護師が行い、その結果の判定を嘱託医の産山診療所林田医師にお願いしました。胸部レントゲン撮影も済生会予防医療センターの福祉活動の一環としての協力により本年も無料での健診となりました。ポータブルの撮影機器を施設内に持ち込んでの撮影で入所者、職員双方の負担軽減を図る事が出来大変スムーズに実施できました。精密検査の必要な方もなく全員異常は見られませんでした。
- ② 血液検査等検診結果は主治医に報告し要精検、要指導等引き続きフォローアップに努めましたが積極的治療の必要な方は見られませんでした。
- ③ インフルエンザ予防接種は保証人より同意を得て該当者全員に接種出来ました。
- ④ 例年誤嚥性肺炎で入院される方が多く見られる事から口腔ケアの周知徹底を行い就寝前と朝起床時はお茶でうがいをするなど誤嚥性肺炎の予防に努め罹患の減少ができました。

### 2 感染予防について

- ① インフルエンザが村内保育や児童生徒間で流行しましたが、特養や四季の杜入所者からの発症はなく、デイサービス利用者の発症もありませんでした。地域や出入りの業者等による感染もなく、「もちこまない」を徹底することができました。
- ② 職員1名がり患しましたが出勤停止により感染拡大は見られませんでした。12月からは出勤時検温を実施し、発熱者は勤務を控えるという申し合わせを徹底した結果感染防止することができました。
- ③ 入所者で37, 2℃以上の有熱者はリビングに出さず個室対応を徹底しました。

- ④ 入所者へは手洗い、うがいを徹底し、廊下の手すりやトイレなどには除菌だーというノロウイルスにもインフルエンザ等にも効果が立証済みの消毒を徹底して行いました。
- ⑤ 感染予防委員会を3ヶ月に1回開催するとともに梅雨前に食中毒予防とインフルエンザ流行前に職員への研修会も委員会主催で実施しました

### 3 介護職と連携し異常の早期発見

- ① 入院状況 入院の述べ件数は11件、実入院は10名でした。入院の主となる疾患名は大腿骨骨折が4名、肺炎が3名、蜂窩織炎1名、低酸素血症1名、脳梗塞1名、眩暈1名でした。入院先は大阿蘇病院、阿蘇医療センター、阿蘇温泉病院、阿蘇郡外の済生会病院への転院も1名ありました。  
肺炎は昨年の8名から激減しました。
- ② 外来受診状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
産山診療所	12	13	3	1	8	9	12	1	4	3	38	1
やまなみHP			1			1			1			1
地域医療センター	1		1	1		1						
温泉HP内科										1		1
温泉HP泌尿器科												1
温泉HP皮膚科	2		2	1	1	1	1	1	2			
セントラルHP	1											
大阿蘇HP整形			1		2	1				1		
大阿蘇HP内科			1		1							
皮膚科	2		2	1	1	1	1	1	2			
歯科	2	9	4	1	6	4	4	4	7	5	6	5
眼科			1			1						1
坂梨ハートクリニック						1						3
小国整形外科											2	

産山診療所の医師が嘱託医であり、発熱など異常者がいれば平日はもちろん休日や夜間など必要な方には往診をされ状態が安定するということで受診回数が増えています。特に2月は熱発者が多く頻回に往診していただきました。これは肺炎による入院が減少したことから入院にならないよう、重篤な症状に進行しない段階で早期受診にも努めた結果といえます。また看取りが開始になると必然的に往診が増えその結果表のような受診回数になっています。また、歯科はきずな歯科が協力医であり入れ歯の調整など往診での治療ができたことで利用者にとっては美味しく食

べる事が出来大変助かっています。

通院は協力医への受診が基本ですが緊急や専門的な病気を有する人については家族の協力を得ながら定期受診の機会を確保しました。

入院については、転倒による骨折が4件あり予測を行的確に見守りを行っていく必要があります。

平成28年度は病院での死亡も含めて3人が亡くなりました。その他長期入院を余儀なくされ施設退所となった方が6名ありました。高齢に伴いいろいろな病気が起こり日頃より食事摂取状況をはじめ全身状態の把握を行い介護と連携しながら早めに主治医、家族、介護及び看護スタッフとカンファレンスの場を持ちました。今後の治療方針や緊急時の対応などについて話し合いを行い思いを共有することで緊急時での対応もスムーズできました。今後もタイムリーに関係者とのカンファレンスを行い課題を共有して安心安全に過ごしてもらうよう技術の向上に向けた取り組みをさらに推進していきたいとおもいます。

#### 4 身体機能の維持向上について

- ① 介護職と連携しながら離床や着衣、排泄、口腔ケアなどの日常生活動作の中でできるだけ自分でできることは自分ですよう促し援助しました。
- ② 機能訓練は例年どおり毎月2回PTに依頼し訓練計画と評価を実施しています。通常の訓練についてその機会を利用して、個々のケースについて相談しながら日課の計画を立てて訓練を行いました。訓練内容は歩行訓練、上肢の運動などを積極的に実施して現状維持を目標に取り組みました。

#### 5 看取り介護について

- ・平成28年度施設で亡くなった方は2人ですが看取りを行った方は1名であとの1名は突然の死亡で看取り同意書等看取りの体制が整っていませんでした。看取り介護では家族の方も体調が悪く積極的な参加はできない状況でしたが家族にはできるだけ負担をかけないよう、状況だけは的確に伝え安心していただけるよう配慮しました。居室には花を活けたり好きな音楽を流し、穏やかな安らぎのある空間を作るよう心がけ共に寄り添いながら看取る事が出来ました。看取り後のカンファレンスではケアプランに沿って実施できたか。本人の尊厳は守られたのか家族の思いはどうだったのかについて話し合いました。今後は家族や医師も交えたデスクカンファレンスを実施しより良い看取りを実施していきたいと思えます。
- ・発熱を繰り返したり、経口摂取が難しくなってきた人に対しては適切な時期に主治医にカンファレンスを依頼し医師、家族、介護職員、看護職員が一堂に集まり病状や今後の見通し、家族の思いなど共有する場を設けました。施設の職員間はもちろん主治医、家族との連携が出来ました。
- ・看取りの同意書についてはカンファレンスの後に説明して署名してもらいましたが、看取りの同意書が間に合わず急激に悪化されなくなる方もいてこまめに状態を把

握して同意をお願いしていきたいとおもいます。

なでしこの里の嘱託医産山村診療所の林田医師が3月31日で退職との連絡があり4月からの嘱託医は阿蘇市内牧在住の坂梨俊彦医師をお願いすることになりました。

### 3) 給食・栄養事業実績

- ・栄養管理としては食事摂取基準に基づいた献立を作成し、推定平均必要量と推奨量を意識した献立作成を意識しました。ビタミンとカルシウムは米飯に乳カル酵素ファイバーを添加して摂取強化に努めています。その他、ビタミンAおよびCについても摂取量を増やすため、緑黄色野菜や果実の量を見直しました。
- ・特養利用者の食事形態としては、常食15名、粗・小きざみ食11名、ソフト食3名、減塩食2名となっています。四季、ショート、デイ利用者ではほとんどの方が常食で提供しています。摂取量の状況では、ほとんどが全量摂取できている状況で、以前よりも残菜も減っています。中には摂取割合が7,8割にどどまっている方もおられますが、特に目立って栄養補助食品を使用するほど食欲の低下された利用者は見られませんでした。介護スタッフと連携して無理には提供せず、分量に減らしたり、朝夕2食で提供するなどの対応をしています。
- ・BMIの結果では、25%以上の方の割合が18.5%未満の方の割合を上回っている状況です。
- ・節分、ひなまつり、七夕、敬老の日などは行事食を提供し、運動会やおせちはプレート盛りでいつもと変化を持たせ提供ができました。その他バーベキューやそうめん流し、冬至にはゆずに南瓜、七草がゆなど季節を感じていただけるよう食事に取り入れました。また、施設の菜園で収穫した里芋を忘年会の芋煮に料理して利用者に喜んで食べていただけました。
- ・給食委員会(2月、10月)と嗜好調査(6月、12月)を実施できました。
- ・毎日の食材の次亜消毒に器具の消毒と乾燥、保存食の保管、月1回の検便を実施し、衛生と安全管理を徹底しました。
- ・配膳はできるだけ直前を心がけ、温冷の適温での食事提供に努めました。
- ・食事形態や食器の変更などは給食委員会や介護職員と相談し、利用者の食事の様子をみながら、食べやすい形態、食事が認知しやすいまたは持ちやすい器に変更するなどの対応ができました。その他、代替食の提供など個人への配慮が行えました。
- ・非常食については、備蓄していた缶詰やレトルト食品と併せて、村からの物資も食事のなかに取り入れて消化することができました。熊本地震も起こり、改めて非常用の備蓄食等について考えるきっかけができ、備えることの大切さを実感しました。研修などで学んだことを生かしながら今後も施設全体で非常時の対応について考えて、備蓄食を整備して行きたいと思えます。

### 3. 各施設事業実績

#### 1) 特別養護老人ホーム なでしこの里 定員29名

平成28年度の入所者は4月1日時点では25名でしたが16日に熊本震災が起き

ショートステイの希望が多く特養の空床利用として全室使用しました。それ以降も空床利用が続き11月末に特養入所希望が相次ぎ29室満室となりました。さらに全壊の家より入所希望があり県に相談。特例入所で2名を静養室利用として受け入れ3月末まで31名の特養入所となりました。

熊本地震では、定員はるかにオーバーの利用者を受け入れスタッフも施設に泊まり込んでの介護を必死に行いました。食料も施設長自ら買い出しに出かけたり、行政からおむつや食料品の救援物資の提供を受けて何とか対応できました。水の供給が1日ストップしましたが動ける人は近くの温泉に入りに行くなど様々な工夫を凝らしました。地震の影響で職員のケアに対する意欲も益々高まり、より質の高いケアをご利用者に提供できるよう頑張っています。

今年度は転倒による骨折での入院が多く事故後に事故防止委員会を開催し、各ユニットで事故への意識を高める為の対策（事故継続日数表の作成）など少しでも事故の数を減らせるように日々職員一丸となって考えています。

施設行事の中では外出や利用者個々の嗜好に合わせた誕生日企画（外食、外出、自宅への帰宅など）の実施、昨年に引き続き第4回なでしこの里夏祭りを実施しました。昨年度より職員の動き、催し物の内容等だんだん良くなってきていると、家族会、地域の方よりお褒めの言葉もいただきました。

職員の質の向上の為に月に2回の施設内研修を行い、ご利用者によりよいケアの提供が出来る様に日々努力しています。

その中で「共に支え、共に生きる」の理念のもと職員一人ひとりが利用者に寄り添い利用者を理解し、同じ目線・同じ立場でその方の生活全般を支えるという視点を持ってケアに取り組んできました。

平成29年度は家族会主体行事の増加、農作業、花植えなど利用者が慣れ親しんできたものへの取り組みの強化を更に行って行きたいと考えています。

「なでしこの里」は引き続き、サービスの質の向上はもちろん利用者、地域の方にとってより開かれた施設、地域の交流の場となれるような環境づくりを目指していきたいと考えています。

#### ・事業所別利用者推移表

月	特養	通所	有料	月	特養	通所	有料
4月	25人	20人	11人	10月	27人	21人	12人
5月	25人	20人	11人	11月	28人	22人	12人
6月	25人	20人	11人	12月	31人	24人	12人
7月	24人	21人	12人	1月	31人	25人	12人
8月	27人	24人	12人	2月	31人	27人	12人
9月	26人	23人	12人	3月	31人	24人	12人

・施設内研修

日時	内容	参加人数
H29年5月27日(金)	・平成28年度事業計画について ・接遇について	9名
6月20日(月)	・事故防止について	11名
7月14日(木)	・筋力・体力トレーニングについて	6名
H29年3月6日(月)	・OJT研修を受講して研修について	8名
3月20日(月)	・認知症ケアについて	9名

・施設外研修

月	研修内容	参加者
4月13日	1. 介護職のための接遇マナー	1、渡辺
6月27日～	1. 平成28年度ユニットリーダー研修(講義)	1、酒谷
7月5日	1. 平成28年熊本県老人福祉施設協議会施設長会議	1、橋本
7月11日	2. 公文学習療法マスター指定研修	2、飯野、渡辺
7月13日	3. 経営者セミナー	3、橋本
7月18日～	4. 平成28年度ユニットリーダー研修(実地)	4、酒谷
8月9日	1. 公文学習療法マスター指定研修	1、高橋
8月27日	2. 熊本県喀痰吸引等指導者研修	2、井美代子
9月18日～	1. 認知症専門医から学ぶ“周辺症状”に振り回されないケア	1、帆足
10月1日～	1. 平成28年熊本県主任介護支援専門員更新研修(第1回)	1、井美代子
10月8日	2. 平成28年度熊本県介護保険施設連絡協議会研究大会	2、北
10月28日～	3. 平成28年熊本県主任介護支援専門員更新研修(第2回)	3、井美代子
11月8日～	1. 平成28年熊本県主任介護支援専門員更新研修(第3回)	1、井美代子
11月8日～	2. 認知症介護実践者研修	2、江藤
11月15日～	3. 全国老人福祉施設大会(石川大会)	3、後藤
11月16日～	4. 平成28年熊本県主任介護支援専門員更新研修(第4回)	4、井美代子
11月22日	5. 平成28年度 短期専門コース「介護報酬請求」	5、北
11月29日	6. 熊本県介護支援専門員協会阿蘇支部中部地区研修会	6、飯野
12月2日	1. 要介護認定調査員新規研修	1、飯野
12月4日	2. 経管栄養実地研修指導(講師として)	2、井美代子
12月6日～	3. 福祉職員キャリアパス対応生涯研修(初任者コース)	3、佐藤
12月13日～	4. 職場リーダーの「伝える力」向上研修会	4、下城
12月13日	5. 熊本県民間社会福祉事業従業者退職共済事業事務説明会	5、北
12月16日	6. 災害時栄養管理研修会	6、吉岡
1月17日～	1. 平成28年度相談面接技術研修会	1、渡辺
1月20日	2. 生活支援のための介護・介入の考え方・方法を提供	2、西村



2月7日	1. 第7回九州ブロックユニットケアフォローアップ研修	1、井美代子、榊、 内那
2月7日	2. 福祉職場 OJT 推進研修会	2、高橋
2月9日	3. 腰痛予防対策講習会	3、雪井
2月22日	4. 平成28年度 第23回「4大認知症疾患のリスクとケア」	4、佐藤、松山
2月23日~	5. 平成28年度九社連老人福祉施設協議会施設長研修会	5、井美代子
3月9日	1. 平成28年度第3回熊本県老人福祉施設協議会総会	1、井美代子

・資格について

資格習得を通じて自己の資質を高めたいという意欲のある職員に対しては、費用や研修日の確保などの面で様々な支援を行いました。28年度についてはユニットリーダー資格1名、その結果、ホームヘルパー2級ほぼ全員、ユニットリーダー有資格者7名、介護福祉士10名、社会福祉主事7名が施設に在籍しています。また、研修を終えて戻ってきた職員が他の職員に対して、研修で得た知識や経験などを伝えていったことで職員全体の資質と意欲の向上に繋げることができました。来年度においてもこのような意欲のある職員を尊重し積極的な支援を行っていきたいと考えています。

職員有資格状況（29年3月現在）

ケアマネージャー	4名	社会福祉主事	7名
介護福祉士	10名	ホームヘルパー2級	全員
看護師	2名	ユニットリーダー	7名
准看護師	3名		

- ・入居状況としては、3月31日時点31名（震災による特例2名含む）（稼働率100%）で推移しています。昨年度と同様ユニット毎に月1度のユニット会議を設け、利用者個々のケアの向上を図れるよう職員全体で話し合い日々のケアの向上に努力しました。
- ・行事では、利用者にとって四季の移ろいを肌で感じてもらうために、それぞれの季節に合った行事や施設内で出来る行事の増加に努力してきました。ユニット毎に利用者と一緒におやつ作り、料理作り等を行い利用者の意欲づくりに努めました。
- ・利用者の健康面においては、介護スタッフと看護スタッフが連携し感染予防の徹底に重点をおいて取り組むと共に、館内各ユニットと玄関に感染予防のため除菌器を設置し、インフルエンザ、ノロウイルスなどの流行を防ぐことができました。

・介護度別利用状況（29年3月現在）

介護度		年齢別	
要介護1	1人	60代	1人
要介護2	0人	70代	2人
要介護3	17人	80代	12人
要介護4	9人	90代	16人
要介護5	4人	100代	0人
平均介護度 3.4		平均年齢 88.5歳	

・面会状況（平成28年度）

月	1日平均	延べ人数	月	1日平均	延べ人数
4月	2.9	86	10月	1.6	50
5月	2.3	71	11月	1.4	43
6月	2.3	89	12月	1.9	60
7月	3.2	100	1月	1.6	50
8月	3.5	108	2月	1.7	50
9月	2.7	80	3月	2.3	73

・利用者の外出、外泊状況（平成28年度）

外泊 11回/年

外出 82回/年

・年間行事報告

月	行事内容
4月	・誕生日会、花見、野菜植えバーベキュー
5月	・誕生日会、カラオケ大会見物阿蘇市
6月	・誕生日会、花公園外出、焼き肉、
7月	・誕生日会、ほっと館交流
8月	・誕生日会、納涼祭、ほっと館交流、
9月	・誕生日会、産山村敬老会、防災訓練
10月	・誕生日会、押し花教室、紅葉狩り、収穫祭) なでしこの里運動会
11月	・誕生日会
12月	・誕生日会、忘年会餅つき、
1月	・誕生日会
2月	・誕生日会、節分
3月	・誕生日会、ひな祭り、ほっと館交流

2) 短期入所生活介護 なでしこの里 定員 併設 8人

・利用状況については例年冬場の利用が多く見られますが、本年は4月の熊本震災の影響で4月の月延べ人数434人稼働率180%、5月の月延べ人数287人稼働率115%、6月、7月も稼働率85%で推移しています。震災後は、ショートステイの依頼が多数あり、職員とも連絡が取れない状況の中、できるだけ要望に応じて施設にいる職員で力を合わせ利用者の皆様の生活を支える事が出来ました。大変な事態でしたが、なでしこの里として一丸となって協力出来た事で新たな自信が付き今後も利用者の皆様の支えていこうという気持ちが職員の中で強くなりました。今後もここで生活したいと思って頂けるような援助、雰囲気作りに努め、入居やデイサービス利用申し込みに繋げていくよう更に努力していきます。

・短期入所契約者数 19名 (29年3月現在)

介護度別		年齢別	
要介護1	3人	60代	0人
要介護2	3人	70代	0人
要介護3	8人	80代	11人
要介護4	3人	90代	8人
要介護5	1人	100代	0人
平均介護度	2.6	平均 88.9歳	

※(要支援1名)

・短期入所利用者推移表

月	要支援別 人数		要介護度別 人数					延人数	1日 平均
	1	2	1	2	3	4	5		
H28・4	0	1	3	3	8	3	1	434	14.4
5	0	1	3	3	8	3	1	287	9.2
6	0	1	3	3	8	3	1	202	6.7
7	0	0	4	1	6	3	0	209	6.7
8	0	0	3	2	7	2	0	106	3.4
9	0	0	4	3	5	2	0	144	4.8
10	0	0	3	3	7	2	0	161	5.4
11	0	0	2	1	7	2	0	161	5.4
12	0	0	3	4	7	2	1	156	5.2
H29・1	0	0	2	3	4	1	1	187	6.2
2	0	0	3	2	5	1	0	165	5.9
3	0	0	3	2	5	1	0	93	3.0

### 3) なでしこデイサービスセンター 定員12名

#### 1) 基本方針

認知症対応型通所介護事業所として、自立支援、認知症進行予防・認知症予防などのサービス提供を行い在宅生活が可能限り継続され一日でも長くデイサービスを利用して頂くように努めました。

広告や広報を作成し、村民への周知活動を徹底することで、新規利用者も増加しました。今後も引き続き周知活動等を行って現在大きな問題になっている認知症高齢対策に寄与していきたいと考えています。

#### 2) 認知症進行防止のための支援

3ヶ月に1回 MMSE 測定の実施をおこない、認知症進行度の評価、確認を行いました。認知症について職員への周知を図り、職員の専門資格の取得や個別ケアの充実に努めました。

又、五感を刺激し認知症予防に効果が期待できるとして下記の活動を行いました。

- ① 月2回の書道教室や4ヶ月1回の押し花教室を行い村内の文化祭や、催しに作品を出品・展示しました。作品の製作ばかりではなく展示会場へ行かれる事で地域の顔見知りの方との交流を深めることもできました。
- ② 畑仕事を取り入れ、種植えや収穫をしてもらうことで、昔や行われていた畑仕事を思い出しながら作業をし、地域の方と一緒に作業することで、地域社会と交流をすることができた。
- ③ 季節の外出行事を計画実施し、活動時間を増やし脳の活性化につなげることができました。
- ④ ロコモ体操（ロコモティブシンドローム）を日常生活時、転倒のリスク削減の為機能訓練の一貫として取り入れました。
- ⑤ 家族・本人に希望により、公文式脳トレーニングの学習を週2回程度実施して認知症の進行予防につなげられたと思われまます。

#### 3) 健康管理

利用時は看護師を中心とした感染症の予防対策を徹底し、職員、利用者ともに手洗い・うがいの徹底、職員は自宅で検温を行い、熱が37.5度以上ある職員は勤務停止。また、利用者は迎え時に乗車前の検温を行い、熱が37.5度以上ある方には利用を控えていただき、病院の受診をご本人及び家族へ勧めました。今後も検温、状態観察、家族からの情報収集、各関係機関への報告を徹底し健康管理に努めます。

#### 4) なでしこデイサービスの周知活動

毎月発行される「うぶやま公報」に活動の紹介や募集案内を折り込みました。広告や宣言ストラップを作成し周知活動を行いました。

5) 年間行事報告

月	行事内容
全体行事	夏祭り (8/21)、産山村敬老会 (9/15) 収穫祭 (11/10)、運動会 (10/22)、忘年会兼クリスマス会 (12/23) 村民文化祭 (11/15)
4月	花見 (4/5~4/9) 書道教室 (4/1・4/15) 押し花教室 (4/11)
5月	鯉のぼり見物 (5/4) 書道教室 (5/13・5/27)
6月	紫陽花見物 (6/14~6/17) 書道教室 (6/10・6/24) 押し花教室 (6/13)
7月	夕涼み会 (7/19~7/21) 書道教室 (7/8・7/22) 誕生会 (7/28)
8月	ヒゴタイ見物 (8/23~8/25) 書道教室 (8/12・8/26) 押し花教室 (8/5)
9月	彼岸花見物 (9/9・9/15) 書道教室 (9/2・9/16)
10月	押し花教室 (10/12) 書道教室 (10/7・10/21)
11月	イチョウ見物 (11/8~11/10) 書道教室 (11/4・11/18)
12月	押し花教室 (12/14) 書道教室 (12/2・12/9)
1月	初詣 (1/24) 書道教室 (1/6・1/20)
2月	書道教室 (2/3・2/17)
3月	岡城見物 (3/14~3/16) 書道教室 (3/3・3/17)

※3ヶ月1回誕生会を実施

1 デイサービス利用実績

○ 1日平均利用人数

4月	7.2人	11月	8.7人
5月	9.0人	12月	9.7人
6月	8.7人	1月	9.5人
7月	8.7人	2月	9.2人
8月	8.2人	3月	8.8人
9月	8.5人		
10月	8.6人	平均	8.8人

○ デイサービス登録者 数年間登録人数

4月	20人	11月	22人
5月	20人	12月	24人
6月	20人	1月	25人
7月	21人	2月	27人
8月	24人	3月	24人
9月	23人		
10月	21人	平均	22.6人

・利用者利用状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

介護度		年齢別	
		60代	0人
		70代	1人
要介護1	9人	80代	15人
要介護2	6人	90代	11人
要介護3	1人	100代	0人
要介護4	1人		
要介護5	0人		
平均介護度 1.7		平均年齢 87.3	

来年度は認知症の専門性を更に身につけていけるように職員一丸となって努力まい進し、利用者がいつまでもできる限り自立して自宅で生活できるよう認知症対策に重点をおいたデイサービスの充実を図ってまいります。

**4) 有料老人ホーム 四季の杜 定員12名**

○基本方針

さまざまな事情をかかえて入居された利用者に安心と安らぎのある暮らしを提供できるように利用者側の気持ちに添いながら生活支援やサポートに努めました。

入居募集の広告作成・多方面への配布を行い利用者獲得に努めると共に、関係機関にも御協力頂き増員ができました。熊本地震による影響で1名被災された方が入所となっています。

今後も近隣町村、病院や在宅事業所等へ営業と周知を行い新たな利用者獲得及び、待機者等の確保に努めます。またインターネットサイト（みんなの介護）に施設紹介を載せ全国に配信も行いました。

○安心安全の住まいの提供と生活の支援

衣・食・住・の3要素を念頭に安全に配慮した生活空間の最大利用を図り楽しい会話、個人生活を尊重し、相手の立場に立った処遇に努めました。

入居以前の自宅生活に近い環境作りに努め、個人の昔からの慣れ親しんだ趣味や作業を日課に取り入れた。入居中のさまざまな、利用者・家族からの相談・要望・苦情には、速やかに対応、処理できるよう努めました。

○アクティビティ

買い物ツアー（外出支援）・・・月に1回

施設外周散策（椎茸・きゅうり・ゴウヤ・梅）・・・採取・・・不定期実施

そうめん流し・バーベキュー・・・8月29日

運動会・夏祭り・忘年会・・・運動会（10/22）、夏祭り（8/21）、忘年会（12/23）

他方面への催し物参加・・・敬老会（9/15）、村民文化祭（11/15）

○健康及び身体機能の向上のための支援

利用者の起床時のバイタルチェックの徹底、バイタル異常者の看護への報告の徹底、感染しないように利用者・職員の手洗いうがい、施設内の殺菌消毒・検温を徹底、行政や関係機関共連携し感染予防に努めました。

○利用者状況 平成 29 年 3 月 31 日現在

・男女別利用町村

	産山村	阿蘇市	小国町	竹田市	福岡県	益城町
男 性	0 名	1 名	0 名	0 名	1 名	1 名
女 性	4 名	2 名	1 名	1 名	0 名	0 名

・介護度

自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0 名	0 名	2 名	3 名	4 名	1 名	1 名	0 名

※平均介護度 1.0

・年齢

60 歳未満	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	100 歳以上
0 名	0 名	0 名	5 名	6 名	0 名

※平均年齢 88.0 歳

・介護サービス利用内訳（ 延べ人数 ）

なでしこデイサービス	9 名
デイサービスセンター ほっと館	3 名
訪問介護	8 名

四季の杜の利用者が、介護保険サービスを使いながら、いつまでもお元気に明るく過ごして頂けるように職員全員が、技術・知識の向上に努め、より良いサービスの展開が図れるように邁進していくように今後も努力してまいります